

標 題 : Olive Oil Effects on Colorectal Cancer.
結直腸がんに対するオリーブ油の影響

著 者 : A.M. Borzi, et al. (イタリア カターニア大学 高齢医学大学院
臨床・実験医学科)

掲 載 誌 : Nutrients. 2018 Dec 23; 11(1). pii: E32. doi: 10.3390/nu11010032.

要 旨 :

結直腸がんは、世界中で4番目のがん関連の死因である。

地中海食事が結直腸がんに対して予防作用を示すのは、各種の物質の摂取のためである。

オリーブ油は、地中海食の基本的な構成成分である。

オリーブ油は、高価値の健康に良い化合物（1価不飽和脂肪酸、スクワレン、植物ステロール、およびフェノールなど）に富んでいる。

フェノール化合物は、フリーラジカル、炎症、腸内微生物相、および発がんに対して好ましい影響を発揮する。

腸内微生物相とオリーブ油摂取との間の相互作用は、結腸微生物の組成および活動を変化できるので、がん予防の可能性を伴う。

腸内微生物相はオリーブ油に見出される物質を分解でき、化学予防作用のある活性代謝産物を生成する。

オリーブ油およびその成分の有益な効果を明らかにするために、さらに臨床研究が必要である。

オリーブ油に見出される化合物のより優れた知識が、結直腸がんの予防と治療に可能性のある栄養補助食品または化学予防剤の開発に導くであろう。

キーワード : 抗酸化物、結直腸がん、炎症、微生物相、オリーブ油、フェノール
